

# 生神女讃詞

5調

月曜日

ザピエフ



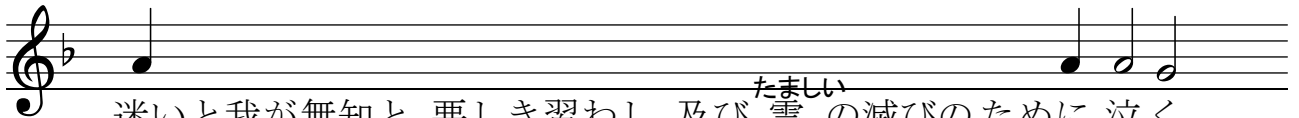
光 栄は父と子と聖神に帰す、 いまも い つ も 世 世 にアミン



我幼き時より罪を犯してやめず 我が智恵を くら まし



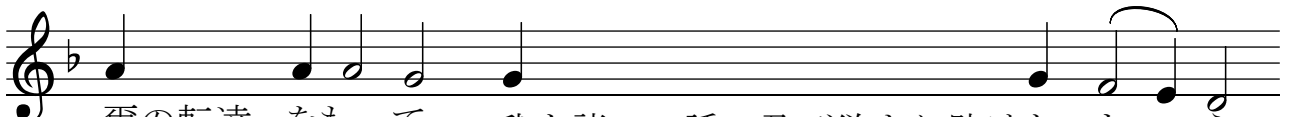
心を悪に 習わし た り 今我 なげ きて 我が甚だしき



迷いと我が無知と 悪しき習わし 及び <sup>たましい</sup> 霊 の滅びのために 泣く



女宰よ、我亡ぶる者を 棄てずして 我を 憐れ み て



爾の転達 をもって 我を諸々の誘い及び欲より助けた ま - え



我老ゆるに 及 びて も 神の前に 痛-かい せんためな-り

# 生神女讃詞

5調

火曜日木曜日

ザピエフ



光 栄は父と子と聖神に帰す、いまもいっ とも 世 世 にアミン



罪なき吾が ハリストスよ 爾は衆人に救いを獲しめんと 欲 して



我等の為に 贖しよくざいとして 値の大なる爾の至りて 潔いさぎよき 血を



甘んじて与え たまえり 故に爾の母は爾が釘せられしを見て



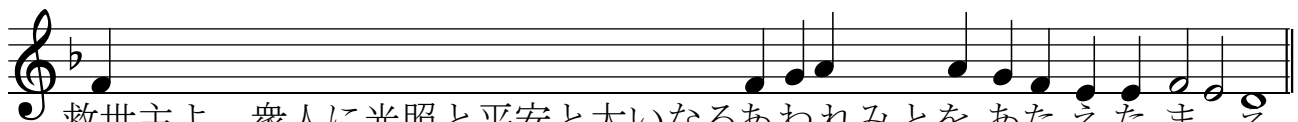
涙を な が - し 痛く嘆きて 言 えり 我が子至りて 無玷なる



こひっ じ 暮れざる ひかりよ 爾の 尊き 血にて



世界を 贖あがなわんと 欲 して 如何ぞ我が目より 隠れ た - る



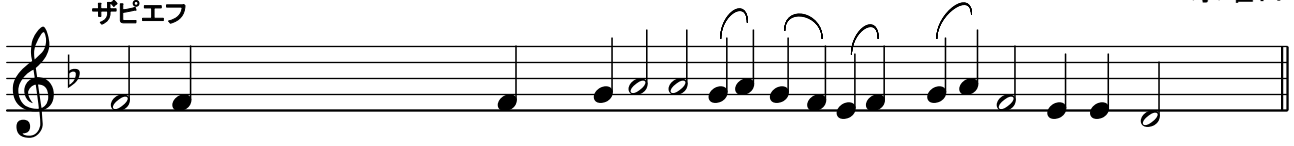
救世主よ、衆人に光照と平安と大いなるあわれみとを あたえたま え

# 生神女讃詞

5 調

水曜日

ザピエフ



光 栄は父と子と聖神に帰す、 いまもい—つ—も— 世—世— にアミン



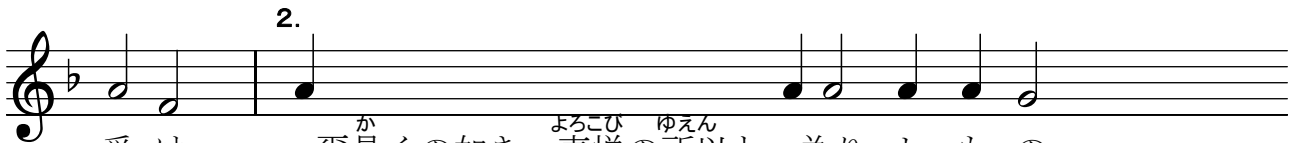
よろこべよ 諸預言者の 封印 — 及び神の声なる使徒等の宣伝たる



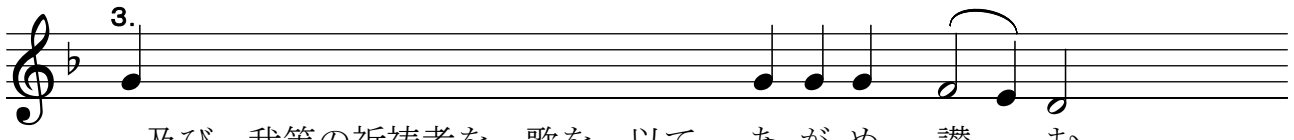
潔きもの—や <sup>いさぎよ</sup> 爾は実に真実なる かみ 身を取りしものよ、



智恵とことばとに超えて生み たまえり。 我等彼に由りて当初の良産を <sup>りょうさん</sup>



受け、 爾是くの如き <sup>か</sup> 喜<sup>よろこび</sup>悦<sup>ゆえん</sup>の所以と 為りしもの

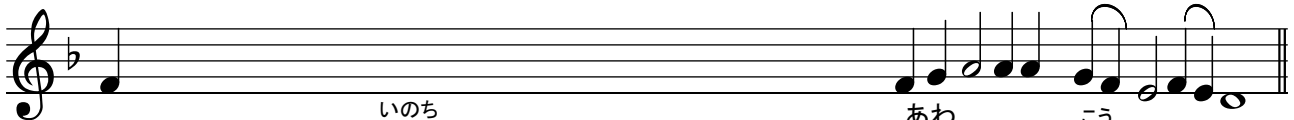


及び 我等の祈祷者を 歌を 以て あがめ 讃—む。



至浄なるものよ、 我等は爾の恩恵に富ま <sup>めぐみ</sup> されて

終止



爾の子より 永遠の生命を得て、豊かに其の大なる <sup>いのち</sup> 憐れみを <sup>あわ</sup> 蒙 <sup>こう</sup> む—る

# 生神女讃詞

5調

火曜日木曜日

ザピエフ



光 栄は父と子と聖神に帰す、いまもいっ とも 世 世 にアミン



罪なき吾が ハリストスよ 爾は衆人に救いを獲しめんと 欲 して



我等の為に 贖しよくざいとして 値の大なる爾の至りて 潔いさぎよき 血を



甘んじて与え たまえり 故に爾の母は爾が釘せられしを見て



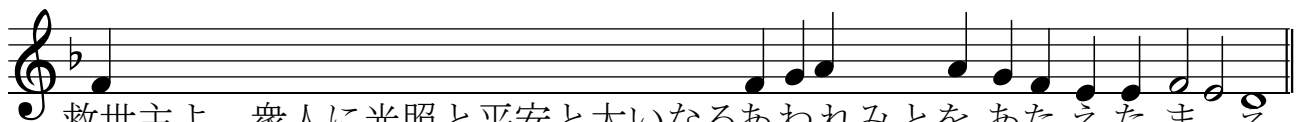
涙を な が - し 痛く嘆きて 言 えり 我が子至りて 無玷なる



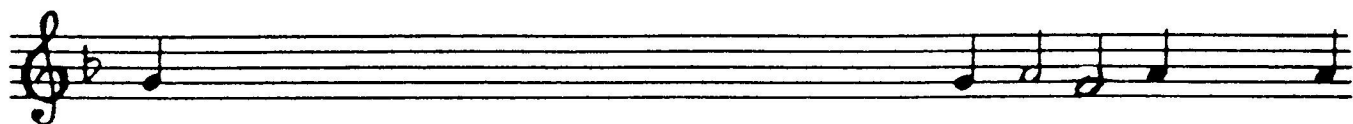
こひつじ 暮れざる ひかりよ 爾の 尊き 血にて



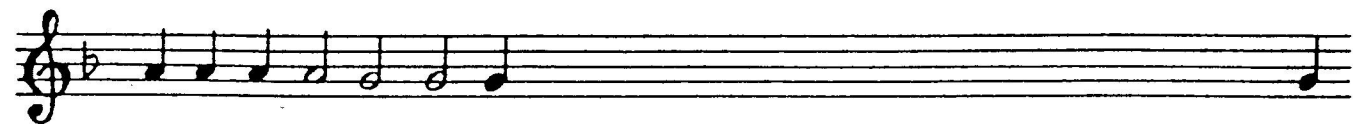
世界を 贖あがなわんと 欲 して 如何ぞ我が目より 隠れ た - る



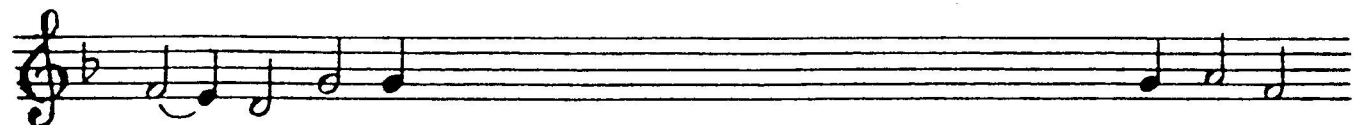
救世主よ、衆人に光照と平安と大いなるあわれみとを あたえたま え



主や汝によぶすみやかに我れにいたりたまえ主やわれに



ききたまえ主や汝に呼ぶすみやかに我れにいたりた



ま えなじに呼ぶとき我が祈りの声をいれたまえ



主やわれにききたま えねがわくは我がいのりは



香炉コウロの香カオりのごとく汝がかんばせの前にのほり



我が手をあぐるは暮クれのまつりのごとくいれられん



主やわれにききたま え

# 生神女讃詞

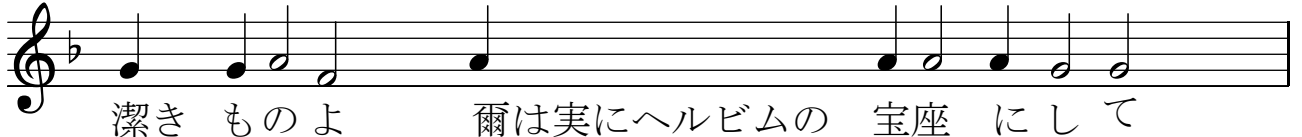
5 調

日曜日

ザピエフ



光栄は父と子と聖神に帰す、いまもい つ - 世 世 にアミン



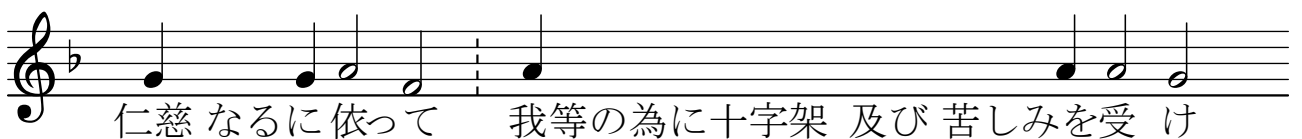
潔き ものよ 爾は実にヘルビムの 宝座 にして



諸天使に超ゆる者 な - り 蓋 神の言は我等の形を新たに



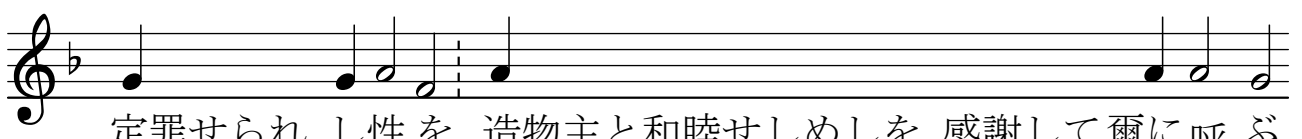
せんと欲して 爾の内に入りたり 身を取りて 爾より 出でて



仁慈なるに依って 我等の為に十字架 及び 苦しみを 受け



神なるに由りて 復活をたまえり 故に我等 爾が我等の



定罪せられ し性を 造物主と和睦せしめしを 感謝して 爾に呼ぶ



爾の祈禱によりて 我等に諸罪の赦しと



あわれみとを あたえ たま - え